夕刊
磐城新聞
七月七日發行

法燈は輝く 二

—因にヂャンガラ念佛師について—

鈴木積善

この不安の觀念は同時に罪惡の恐怖を伴ふるのである。此處に宗敎を求むるの心が強く現はるゝのであるが、この不安につけ込んで跋扈するものは、〆、占見禁、祈禱等、所謂迷信邪敎である。此處に明るき宗敎を與へ、正しき信仰による眞實人生を把握せしむることが必要である。人間の敎、めざめの敎たる佛敎が要求さるゝ所以も玆にある

二、脚下を顧みる

今や社會宗敎に關心を持つてゐる。否、正しき信仰明るき宗敎を求めてゐる。此處に照顧脚下長き傳統を有し、國民生活の糧となつて來た佛敎寺院は果してこの要求を滿し得るであらうか。自分は傳統の尊いことも、葬式法要の大切であることも、勿論認むるものである。けれども寺院の機能は決してそれのみであつてはならないことも同時に主張したい。兎もすれば現在の寺院は佛敎そのものと大分異つた存在でさへありはしないか

佛敎は決して伽藍の中に閉ぢ籠つてゐるものではない。又八萬四千の聖典それ自体でもない。決して道場の中にあるものではない。大衆の生活の中に生命となつて脈うてるものでなければならない。敎役者の一考三思を要求して止まない。若し現在の儘じあるならば佛敎は寺院を素通りして、マイクロホンを通し本屋の店頭よりして、直接に大衆の生活に吸收さるゝであらう

自分は嘗て松岡讓氏の宗敎革新の烽火としての創作『法城を護る人々』の中で現在の寺院形態に鋭利なメスを加へた後ち『宗敎がこんなになつて來たことは敎團自体にも罪があるが信者の方にも責がある』といふやうなことが書いてあつたことを記憶する

古來から『仙臺は闡提に通ず』といふ言葉がある。闡提とは梵語の ICCHANTIKA のことで佛に成ることができぬもの、信仰なきものといふことである。關東一帶より仙臺にかけては昔から無信仰の地として有名であるが、特に磐城はその代表的な所である。宗敎的行事に於ける飲酒、佛寺法要の形式化、寄附行爲の名利化等の二三に就いて見たゞけでもその一斑を知ることが出來る。私は此處に現下の宗敎的關心に對して我が郷黨の磐城にありては如何?といふことを顧て反省したいのである

やけ酒

串田一郎

泣ける思ひも
泣けもせず
らつぱ仰した
ほろ苦さ

呑めども晴れぬ
うさ故に
やけになつて
見ましたが

無理なお酒の
さめぎはゝ
ほんに淋しい
あけの月

乙女心

すねてかたいぢ
はつてはみたが
今じや氣になる
氣にかゝる
怒つちやいやよ
おりや出來心

何んでもないのよ
氣にしちや嫌よ
すねてゐまわて
見たまでよ
私しやほがらか
おりや出來心

業餘吟

木村盤秋

某氏によす三首

○故鄕に妻も子もおきてはるばると海越えゆきし人を思はむ

○はるばると海こえゆきてからくにに心いきほひたちし君かも

○落ちぶれて故鄕を出でける村人が送りし粢は今日屆きたり

日曜漫吟

○水仙の花さく庭に下りたちてこのひとときの心淸しむ

○打ちつゞけに五通の手紙かきにしが肩こりしまま晝となりぬ

○いくつもの爲事は持ちて來りしが客來友きて一日は暮えぬ

芝蘭集 九

○壽歌　疎雲　直胤

○神の御饌生き長らふる父なれば盤幸ふ身の彌榮えなむ

○神嘗奉仕

○君と神に誠盡して年まねし八十年と言へば長くもある哉

○昇叙を祈りて

○位山高きに昇り神祭る父の姿を見る由もがな

○獻身奉仕

○己が身の誠捧ぐるみ燈に神のみ前は輝きにけり

社頭雪　なかなかに杉の大木の影にして積りかてなる御社の雪

社頭楠　千早振る神の御稜威のことゝりて匂高くも茂る楠哉

愛國　浦安の國の護と賴てし文の林に風荒れにけり

早春水　白山の山ふところに春の來て草萌ゆるまで水温みけり

鶯　鹿朶垣の樹くれに早鳴く鶯を歩み緩めて聞きにける哉

川上柳　水の輪のやがて靜に消えさりぬ淵の柳の影もうつりて

浦萃春　今日ばかり海士のせり聲和めきて千賀の浦回に春萃むとす

梅園　此處ばかり陽炎立ちて陽さしさへ照に霞む水戶の梅園

古城花　武士の立てし功を水鏡寫して咲ける城跡の花

花稍散　み神樂の音に合せて二つ三つ花瓣舞へりあな面白や

杜新樹　千木高く若葉匂ひてさ緑の色たゝなはる神奈備の杜

雲海　朝日子のい照り昇りて雲の海の八重雲の波湧き返へりけり

露　いさら井に枝指し交す松の葉の露落ちんとす見れど落ちぬ哉

7月8日

△華士族分家の者を平民とす(明治七)△獨逸財政窮迫非常時緊急令を發す(昭和六)△ロザンヌ賠償協定成立獨の支拂三十億マルク△地方事務官を警視異動(同七)△文部省では非常時國民の覺悟を題する冊子十萬を全國に配布(同八)

7月9日

△淺草寺再建(承應八)△塙保己一卒す(文政四)△兵力六萬の徐寶鎭叛く△『勞働クラブ』改め『日本勞働組合會議』右翼、中間團体で結成さる△ローザンヌ會議終り條約正文に調印(昭和七)△伊豫の松山城燒失す、天主閣は殘る(同八)

〔例會の今日〕

○

水音のあちこちに澄む螢かな　小野雅子

白道の花咲きみてり池の端に老僧ひとり御手あはせ立つ　土田耕平

講談

浪人長屋

(133) 日岐武志作　月草逍子畫

命知らず

『おやツ、火が燃えてゐるぜ別嬪、洒落た眞似をするでねえけえ、おい、みん來いよ……』

と、どなつてゐた、さうして、件の破れ目から、ひよいと、髭だらけの顎を突き入れて、靜香を見た眼がいやしく、ニタリとした

『へ、へ、へ……居た、居た居たにやちげえねえが、あれあれツいつの間にか細を解いて、焚火をして、チヤツカリ控へてござるこりやあきれた、どうぢや……』

『やい、森、いつまで見てゐるんだ、おれにも見せろツ』

と、熊みたいな顔が、森と代つて、ぬツと、のぞいた

『あラあラ、なるほどなアこいつはあきれたせ、別嬪いやにぬくぬくと、あつたまつているせおやツ、をかしいぞ』

熊の首がくるりと小屋の中を見廻して、すぐ傍につツ立つてゐる權吉をひよいと見上げるとあわてゝ首を引ツ込めやうとしたが、遲かツた……

ひゆうツ……

と、樫の棒が眞上から熊の腦天へ打ち下されてゐた

『わツ』

熊は悲鳴をあげて外へ仰向けに轉がつた

『熊が、やられたぞ』

森が、さけんだ

『誰か別嬪の外に居やがるんだ』

『すげえ奴が居るぞ畜生ツ!』

『うつかり、のぞいちや、あぶねえぞ』

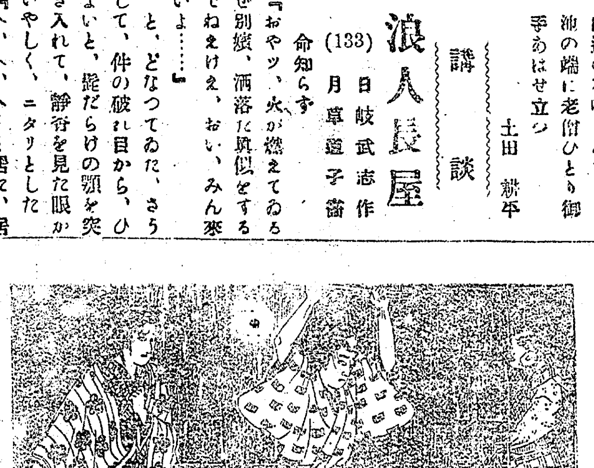
『何んだ。何んだ』

『にいらよりも、先口の奴がへえづり込んでゐやがるんだ』

口々に、わきめき立つた

『だまれ、だまれ』

と、頭だつた奴が、さけんだ



『みんなだまりやがれ、今錠を外すから、みんなその隙間に早く棍棒を見つけるんだ』

『おツと』

『合點』

『熊、ちツと我慢してろ、今仇を取つてやるぞ』

ガチヤガチヤ……

と、錠が、外から外されたらしい

『みんな、用意はよいか』

『合點だ』

『よしツ、どんな奴が中にゐるか知らねえが、いゝかかうするんだ……』

と、頭が、聲を落して、何事かさゝやくのだ

いひ合はしたやうに、男たちは默つて、急に、しーんと靜まり、さツと、不氣味な殺氣が、戶口にみなぎつた

一勢に、どツと、飛び込まうといふのだ

靜香は、キラリと、懷劍を拔いて、壁際の、權吉の後ろで身構へた

相手は、命知らずの山人足

少年權吉と靜香、今はきつと覺悟を決めなければならなかつた

權吉は、樫の棒を、上段に振りかぶつて

——飛び込んで來たら——

と、身構へてゐた

ガタガタツ

と、板戶が開かれたと、同時だつた

どツと、數人の山人足が黑くひとかたまりになつて飛び込んで來た

『えいつ』

待構へてゐた權吉の樫の棒が、ぶーンと、唸りを生じて、飛んでゐた

『わーツ』

『うーツ』

額と、首筋を割られて、忽ち先頭の二人が、そこへへたばつて唸つた

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店　電話六一番
本店　水戶線下館驛前(電話五五番)
支店所在地
茨城縣土浦町中宿(電話六五三)
常磐線關本驛前(電話八二四)
常磐線四倉驛前(電話平潟五四)(電話四八)
◇海上給油及油槽所　久慈濱、大津、平潟
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

夜間診療
胃腸 性病
內科　胃腸病科
花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院　(平町南町電話一〇七番)

氷水
三七三!氷水の御用命は多少に不拘大勉強の電話三七三番へ御用命願ます。
並水　金四錢
イチゴ水　金八錢
あずき氷　金八錢
みつ豆　金八錢
其の他種物一切　金八錢
十一屋　四丁目　電話三七三番

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡(電話四七五番)
安齊外科醫院

電話六四〇番
皆樣のタクシーへ……
此度は夏にふさはしいすが〳〵しい色彩のニーアクシヨン装置が入車致しました、自動車の御用命は電話六四〇番を御呼び下さる皆樣を新車と共に從業員一同御待ち申して居ります。新車も揃ひましたから遠乘の御用には特に御相談に應じます。
尼子タクシー　電話六四〇番

外科全般
特ニ內臟外科及ビ內、外、兩域疾患
醫學博士　渡部義夫
小兒科、內科
女醫　渡部きい
平町役場前、電話(二一七)
渡部外科
入院應需
診療午前八時ヨリ午後九時迄

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
㊆釜屋商店
磐城國平町五丁目　電話九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊆の生命なり

精神病科
脳脊髓病科
神經病科
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁　安積口學より約五丁
郡山腦病院　電話九二五番
入院隨時
院長　醫學士　金森五郎

東京株式取引所　短期　實物　取引
角治商店
電話茅場(66)　一三七一　一三七三　一三七五　二四六　一三七二　一三七四　二四五　八四　長六〇〇
東京市日本橋區兜町一ノ四　電略(カ)又ハ(カクヂ)

公社債、株式現物賣買
角治株式店
平町本町三丁目　七十七銀行隣り　大谷時計店裏
株式日報　營業案內御通進呈
電話七三番
主任　山田芳藏

外科專門
X光線科
平南町
入院隨意(自炊の便あり)
上田醫院　(電話二二九)
病室完備

頭打ち的傾向を脱し 炭界再び大活況を豫想
今から年末の大量增送計劃

夏期不需要期に入つた石炭界は需要の減退並びに增炭の結果としての供給の剩餘に伴ひ、その貯炭は漸增の一途をたどり、五月末の如き全山貯炭高は百七十六萬八千餘噸の巨額に達し、一時未曾有の好況を謳歌した石炭界もこゝに漸く頭打ちの觀を示し始めた。これに對し昭和石炭の本年度需給及び貯炭豫想は左の如く、貯炭の激增も只夏場のみに限られ、秋季に入れば一般需要の恢復並に製鐵、製鋼、造船、人絹工業の消費增、伴ひ炭界好況の再來は必要なりとし下期末に於ける大量增送の準備まで進めて居る。本年度需給豫想（單位千瓲括弧内は前年對比增△減）

内地陸上三二、八〇〇（四、〇〇〇）内船焚料三、五〇〇（六〇）輸移出及外船焚料二、四四〇（三〇五）計三八、二九〇（三、七五五）供給内地出給三一、四四〇（一、四八六）輸移入四、八二〇（六三三）計三六、二二〇（二、一一九）

本年度貯炭豫想

六月	一、九一〇
七月	一、九三〇
八月	一、八六〇
九月	一、七三〇
十月	一、四〇〇
十一月	八八〇
十二月	一五〇

即ち貯炭の激增を見るは六月以降九月の夏場不需要期のみであるがこの五月乃至九月の五ヶ月間は石炭聯合會に於て既に百萬瓲各月二十萬瓲の送炭制限を行ふことゝなつてをり年末に至れば貯炭は僅かに十五萬瓲と未曾有の少額になる豫想で再び石炭飢饉を惹起する虞が充分ありこれが對應策としては聯合會として十月以降約二百萬瓲の大量增送を考慮中である

島田誠少佐 海葬執行

平町上田醫院の一家滿爲として軍籍に入つた空の勇士横須賀海軍航空隊附海軍少佐島田誠氏の遺骸は昨六日九品寺に於ける告別式後航空隊司令大西少將及同期生は二名を殘し歸隊後茶毘に附し遺骨は今七日午前九時一分發省沼町長在軍聯合、將校、靑年團海軍部及篠山第一校長引率の同校高一ノ一組兒童約四十名が見送り僚友河本大尉等に護られて原隊に歸還したが十日同隊に於て海軍葬を執行すると

純情いみじく 愛の使者は笑む
けふ第二兒女の病者慰問

平第二小學校では昨報の如く今七日乙女の純情いみじき花祭りを擧げた後各病醫院の入院患者を慰問病床の憂悶を癒す草花を贈つたが、その愛の使者が花に添へて贈つた『花を贈る言葉』は次の如し

花を贈る言葉

此の世の中に花程美しいものはありますまい。それもその筈、花は神の奇麗な御心を表はしたものなさうです。此の奇麗な花を見て誰一人不快な心を起す人はないでせう。實に花は地上の萬物を淨化し人の心を美化しそうして大愛の心に導きます。昔から『花を賞する者に惡人なし』といふて居りますが、此の世の萬人が花の樣な美くしい心を持つならば、世にうらみもなく爭ひもなく、所謂極樂境に變ることでせう。それ故私共は一時でも此の花の心を心として世渡りをしたいと思ひます。我が平第二小學校では毎年七月七日の日を花祭日と定めて花の精を祭り、奇麗な花を澤山飾つて。これを讚美しこれらの花に感謝し其の中で終日樂しい學藝會をすることゝ致して居ります。そうして此の摘つた花を病床にあらるゝ方々に御贈り申上げ御心を慰め、一時たりともなやみを御忘れになり少しでも御疲れを癒すことが出來ればと思ふものであります どうぞ此の花を御覽になつて一日も早く御なほり下さる樣神かけて御祈り致します

昭和九年七月七日

春の安値に懲り 夏秋蠶を手控ふ
平管内で二割減豫想

未曾有の安値を示した春蠶成績から郡山方部養蠶家連は早くも夏、秋蠶の日和見を申し合せた程であり、郡下も今月下旬から來月上旬にかけて上簇するので比較的優良な大浦、三坂方部を擬して居る蠶業取締や支所では目下係員が出張掃立を督勵して居るが前記の狀態から收繭は昨年の十萬貫に比し一割五分乃至二割減收の八萬貫前後であらうと觀て居ると

水不足の年丈けに 偉業の恩惠を痛感
澤村公墓前祭を張り込む

中窪村に於ける萬頃の水田は過般來の旱魃にも灌漑に何等の支障無く何れも豊滿な水量を得て稻作も美事に成長して居るので澤村公の偉業に感銘した同村靑年團では來る十四日上平利安寺なる公墓前祭を催し物その他で例年以上盛大に執行すべく昨六日夜は小學校に井上村長（靑年團長）其他關係者集合第一回の協議會を開き次回に於て種々確定すると

九品寺前 卅町歩を蘇らす 揚水ポンプ特設
愈々けふから實行

中町北目、久保町並に九品寺附近の水田三十餘町歩は旣報の如く下流の渇水からの水不足を來し組合議員が數次平町にこれが給水を願ひ出たので當局では湯本水道への配水制限、自町上水の分與等により當面を凌いで居たが最近に至つて渇水愈々甚だしく苗の枯死を憂ひらるゝの危機に直面して居るので愈々今七日より高月齋藤に二十馬力の揚水ポンプを特設應急措置を施す事とし

坪當り一斗二升
農作に昨日の慈雨

昨六日午後五時二十九分から約十五分間降りしきつた雨量は坪當り一斗三升五合（神谷農試分場の調査）で畑作の爲非常に良かつたが田は雨乞ひして居た小名濱、三坂方部の水田はこれで助かつたわけで降雹の被害はメロン栽培地のフレーム位なものであらう

。。平信組役員會 今七日午前九時から同所樓上で開催事業報告あつた

受講靑訓主事
來る十日から四日間若松歩兵第二十九聯隊に於て開催される靑年訓練所主事講習會の受講者は縣下から四十名を選定したが本郡の分左の如し

（中三坂）佐藤鹽（平窪）井上純（上遠野）高木長年（大浦）根本嘉代一

まなつた

珍しい降雹
最大徑一錢銅貨位

昨夕の驟雨に際し平地方には五時十分頃一時最大徑一錢銅貨大の雹が降つたが農作物其他に別段被害が無かつた模樣である

落雷屋根を燒く
昨夕大浦村で
祐天上人の古址助かる

昨六日午後五時頃大浦村大字上仁井田字西仁井田新妻四倉町長所有住宅屋根に落雷、一部を燒失間もなく鎭火、人畜に被害無かつたが同家は名僧祐天上人の生家だけに一時は附近民から懸念された

伜の土地を擔保に 大金を借り出す
惡ごい什打に懲役の求刑

双葉郡大野村大字大川原農湯邊則明（四八）が昭和四年十二月中承諾無き二男傳（二七）所有の富岡町大字小濱字仲之岡の水田三段三畝四歩外十二筆を擔保とし江名町大字中の作字川岸山下三次（四九）に三千圓の貸與方を申込み同十七日借用證書を僞造した上現金一千圓、小切手千七百圓、計二千七百圓を騙取した私文書僞造行使の詐欺事件は昨六日午後二時より平區裁で香西判事係り、吉岡檢事關與で公判開廷、懲役一年六月を求刑された判決は來る十二日午前九時右は傳の借務否認から昭和五年以來五ヶ年越し民事訴訟の結果此程三次の敗訴に歸したため三次から則明を告訴したものであると

木戸川橋完成 明八日竣功式

双葉郡木戸川橋は堀江工藝會社請負の下に工費四萬圓を以て工事中であつたが此程愈々完成したので明八日縣官を迎へ地方關係者參列竣功式を擧行すると

難題を吹き掛けて 木挽を散々に毆る
けふ二人の準備訊問

東京市荒川區尾久町二丁目七三土工前科二犯島原藤吉（三三）同王子區下十條三四四土工前科一犯石坂縫次郎（四四）の兩名は去ル卅日午後八時半頃小名濱町下町二番地々先道路で同町下町六五木挽職根本金之助（五二）に難題を持ちかけ駒下駄、木劍等で毆打、金之助の前頭部左肩部外二ヶ所に一ヶ月を要する裂傷打撲傷を加へた事件は今七日中島判事、吉田檢事係りで被告兩名の準備訊問を行つた、公判期日は未定

平局内野球
今明二日間開催

燦たる局長盃爭奪の平局內軟式野球試合は今七日は午後四時より明八日は同二時より商業、第一兩校庭に於て開始するが多數の副賞もあり炎熱下の接戰を豫想されて居る

保險、電信、工務不戰一勝

二回戰

（A）工務對電信（B）郵便對集配（一回戰）の勝者對保險

決勝戰

（A）の勝者對（B）の勝者

平局集配手 好遇諸施設

旣報の如く平局では一號便の集配手を十一人に增員したが猶は且つ一人平均毎回二貫乃至四貫の郵便物を受持ちこの酷暑を市外は實距離七、八里を午前七時半より午後二、三時迄、市内は朝の區分を終了後直ちに七時半より一號便配達、十一時迄保險金集金、零時半より二號便、三時半より三號便の配達等其間中々の劇務なので今七日より集配手溜に大型扇風機を備へ明八日頃からは例年通り勤務中水筒を携帶させ尙近々中に市內配達の過勞を防ぐ可く減便の考究中であるが一般の利便から觀ると實現は困難と見られてゐる

投書
投書歡迎

。。。。自動車の右側通行。。。。

◇客を拾ふ町內の徐行、就ては曾て湯本驛前から町端れの踏切り迄二十何分、綴驛入口に於ける當ての無い客待ちに五分等。等平町の計四十何分の超スローモーションに舌鼓を打つた事がある

◇そうかと思ふと、もう客が無いと見極めが附いた平町へ入つてからの歸りの自動車は疾風の如く飛んで其のけたゝましい警笛の威は焦立たしい吾人の神經をより挑戰的に刎ね上げさせずには置かぬ

◇斯んな車は自動車屋の方では慢性に、吾々としては免疫になつて了つたので今更野暮は云はぬが之の街上の暴君が時たま危險な右側通行をやらかすのは斷じて默認出來ない事である

◇七日の朝七時頃古鍛冶町を通つた某車は何の譯か右側を通つて無心で當り前の左側を通つて來た自分を狼狽させた、赤く塗つた車だつたから直に見當は附いたが、お蔭で路傍の泥濘に避難すべく餘儀無くせしめた、で濺き立ての靴を汚して了つた事は勿論である

◇今更事新らしく左側通行の宣傳でもあるまいが以上の樣な無節制な走り方をされては年寄り子供や目の自由で無いものなどは全く遣り切れない、敢て當業者の自覺と其筋の御取締を望む

◇もう一つ之は自動車關係ではないが前記の脅威を受けて田町へ來た處今度は

（南町左鶯領袖役）

亂闘劇實演の 五俳優に懲役求刑
法廷を舞台に鮮かな供述

去月十八日內郷村綴內郷座で繩張りの事から香具師阿部岩三を向ふに廻し夜半の樂屋に時ならぬ亂闘劇を實演した東京明石劇團の俳優に對する傷害事件は今七日香西判事、滿田檢事係りで開廷、演劇柄丈けに審問に對する供述も手振り足振り仲々堂に入つたもので檢事より夫々左の如き懲役を求刑された

懲役五月—東京市芝區宮本町三〇座長花房英三郎 車林健二（三二）同四月—靑森縣津輕郡生れ山本勇一郎（三三）同二月—京都府何鹿郡志賀郷村大字西河內志賀隆（三八）同—宮城縣名取郡生れ佐藤勝治（三八）同—新潟縣西蒲原郡鐵鄉村中郷岸田島良次郎（三三）

平館休業

地方興行界の奇才たる平町南町松田卯次郎氏經營の活動常設館平館は最近愈々經營難に陷り一昨五日から一週間に亘り休館と共に松田氏は一切の手を引き目下資金調達中で債務關係の解決次第上京する筈であると、尙家主大谷時計店では目下館內修理中で希望者へ賃貸する事になる

曉の南町を歩く 「大風呂敷の怪漢」
刑餘の男で盜みの嫌疑

今七日午前四時頃平町南町通りを大風呂敷を背負つて徘徊する擧動不審男あるを警邏中の平署員が連行取調べると、同人は神谷村平神谷前科二犯鈴木伊助（三三）で去る二日宮城刑務所を出獄した者であり風呂敷內の衣類も盜品と睨み目下嚴重取調べ中

賣家
新田町中央目拔きの場所
二階六間
階下四間
希望者御來談を乞ふ（姓名在社）

。。。。豚コレラ豫防注射 本郡の豚コレラ豫防注射日割は左の如く決定

七月十、十一、十二日—勿來（豫定頭數二三三頭）十三、四日—錦（一二九）十五、六日—植田（三五〇）十七、八日—小名濱（一六九）十九日—江名（一八）二十日—泉（九二）二十一、二日—磐崎（一一五）二十三、四日—湯本（一四三）二十五、六日—內郷（一七二）二十七、八日—好間（一〇二）四倉（二五二）二十九、卅日—平（二一四）大浦（一八一）三十一日—平窪（一一四）

。。。。好間農事品評會 好間村農事實行組合並に村農會では來る十日午前十時から同村小學校で研究會を催し郡農會柴田技手の講演後昨年度品評會入賞授與式を擧行

。。。。消防評議員當選 平消防協會評議員改選は今七日正午より同署會議室に開いた結果（中）井上茂作（島入）鈴木與太郎兩氏が選任された

。。。。更生事例發刊 縣實踐振興會では此程郷土更生教育の資料に供するため『福島縣に於ける更生事例』を發刊したが町でも有益なる讀物として今七日町內に周知した

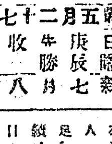
。。。。內郷道路改修 內郷村御台境より高坂へ通ずる幅員四米の村道は今年度匡救事業に割當てられたので一昨五日關係者立合の上地鎭祭を施行した

。。。。平署土用稽古 平署では例年の如く來る廿日から月末まで劍、柔道の土用稽古を行ふが一般の參加も歡迎すると

。。。。不用文籍入札 平町役場では來る二十五日午前十一時から會議室に於て不用文籍の競賣をなすと

八日 日出 四、三一 月出 前一、一二 日沒 七、〇〇 月沒 後四、二一 滿潮 前一、一五 後五、一〇 干潮 前九、二五 後九、二五

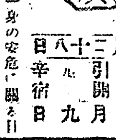
九日 日出 四、三二 月出 前一、五七 日沒 七、〇〇 月沒 後五、一六 滿潮 前二、一〇 後五、五〇 干潮 前一〇、〇〇 後一〇、一五



舊曆 五月二十七日 新日曜 庚辰 七月 牛 勝 八 收 虚 日

鑑判定協會 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

▲一白の人 拒み來たる事を引受日



舊曆 五月二十八日 新 巳 友引 七 開 月 九 辛 宿 日

▲一白の人 一身の安危に關る日親ぼくを旨として可なり ▲二黒の人 勝氣に任せ虚勢を張りて損を蒙る日なり ▲三碧の人 懊惱せる氣も解けて勇氣次第に昂ひ起つ日 ▲四綠の人 實力相應に發展を來たす日病厄盜難等注意 ▲五黃の人 障害にぞ止せられて志望の滿足が期し難し ▲六白の人 順航なる繼けて船舶無事に港に入るが如き日 ▲七赤の人 小利なりとも實收に甘んじ定業を勵むべし ▲八白の人 境遇に呻吟し氣が焦りて益身動きならぬ日 ▲九紫の人 善しと思ひたる事に手を出して後悔する日

恐ろしい傳染病の豫防に 簡便な內服ワクチンを
一人分 金・30
注射と同樣な豫防効力のある便利な內服ワクチンでチブス、パラチブスA・B、赤痢、コレラを防ぎませう。
善は急げ豫防は早く
西村屋藥局 平 電23

診療科目
開業
一、齒科一般 保存科、補綴科、繼續架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
平町田町（松月堂向ヒ）電話五〇九番

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院留意 病室完備）